

## マルクス・レーニン主義通信



## 「産業報国会」化強める 「統一準備会」

十一月四日の総評臨時大会は、先の定期大会に引き続き「労戦統一採択できず」(『朝日』)に終った。十二月十四日の「統一準備会」発足を前に、総評の動搖・組織的分解が一段と強まっている。「統一準備会」への参加を前提に諸々の提案を掲げる模様。富塚の総評執行部に、臨時大会直前の民間拡大評議会、地連大手代表者会議(私鉄)、日教組中央委員会は、ことごとく本部原案拒否や態度保留を打ち出し、彼らの自論見を破綻させたのである。帝国主義的労戦統一に対する労働者の反撃が高まっている。臨時大会の「異例」な事態は、そのことを示した。「統一準備会」の狙いは何か、そして労働者はこれと如何に闘かうか、このことを明確にしなければならない。

# 戦闘的労働運動の大前進を克取れ

十一月四日の総評臨時大会は、先の定期大会に引き続き「労戦統一採択できず」(『朝日』)に終った。十二月十四日の「統一準備会」発足を前に、総評の動搖・組織的分解が一段と強まっている。「統一準備会」への参加を前提に諸々の提案を掲げる模様。富塚の総評執行部に、臨時大会直前の民間拡大評議会、地連大手代表者会議(私鉄)、日教組中央委員会は、ことごとく本部原案拒否や態度保留を打ち出し、彼らの自論見を破綻させたのである。帝国主義的労戦統一に対する労働者の反撃が高まっている。臨時大会の「異例」な事態は、そのことを示した。「統一準備会」の狙いは何か、そして労働者はこれと如何に闘かうか、このことを明確にしなければならない。

「統一準備会」は、どのような労働運動をめざしているのか、このことをまず明らかにしなければならない。

その最大の特徴は、「基本構想」や同盟の八二・八三年度運動方針案に示めされている労資一体化路線である。「基本構想」は、第二次、第三次石油ショック後の日本経済の危機を救出した原動力は「労働組合の対応」であったと述べている。資本の一大合理化攻撃であった「減量経営」は積極的に加担したことを賛美している。

又、同盟が主張する「労働組合の対応」によつて、数十万にのぼる労働者の首切りが強行された。七五年から八〇年にかけて労働組合の成員数は、二三万一一三八名減少し、組織率は戦後最低の三〇・八%を記録した。減少者数の内訳は、総評一五・七%、中立労連五・一%、新産別七・七%、同盟が七一・五%であった。更に、それを労組の規模別で見れば、一〇〇〇名以上の規模での組合員数は二七万二六三九名減少し、逆に一〇〇〇名未満の規模で約五万名程度増加している。

これらの事実は、大企業の労組をその中核とする同盟の下でこそ労働者の減少・首切りが激しかったということであり、彼らは労働者の利益を裏切り、実際にはブルジョアジーの同盟者であり、手先であるということを明らかにしている。

# マルクス・レーニン主義通信

月刊 1部100円

共産主義者同盟(全国委)  
マルクス・レーニン主義派

編集発行人 目黒安雄  
横浜港南郵便局私書箱16号  
振替 横浜9-3719

こうした同盟、JCの役割に対して独占ブルジョアジーは、「わが国において、唯一の、かつ最も重要な資源といえば労使関係の良さにつきる」(『日経タイムズ』八〇年六月二二日、日経連大根会長)と、最大の賛美を送っているのである。

第二は、「労組は政治闘争を排し、経済闘争を重視する」という「労働組合主義」の理念

を重視する」という「労働組合主義」の理念

のアルジョア化に奔走している。

「経済闘争重視」とは、「経済整合性」等の賃金自粛を謳い、搾取の強化を助けることによって労働者の賃金が抑制され、八〇年には実質賃金の上昇が戦後初のマイナスを記録したことで明らかであろう。「労働組合主義」とは、労働者の政治的意識の発揚を妨げるばかりか、労働者を賃金奴隸の状態に束縛し、資本の利益・支配を補完するブルジョア思想であり、同盟、JCはその伝達者であることを示している。

第三に、造船重機労連の「兵器輸出禁止の緩和・解除」を筆頭に、同盟、JCそして民社党の原発促進要求や日米安保条約、有事立法法制定、「韓」国全体制支持等の方針・態度が独占

本号の内容

全体制播がす南朝鮮人民の闘い 3頁  
ロッキード判決と社共 3頁  
—スターイン主義批判(2)—

「社会主義」経済学の  
始祖スターイン(下) 4頁

資本の軍事大國化策動と完全に一体となつているということである。

同盟の「新運動方針案」は、「西側の一員」としての「役割の分担」を明記し、そして、「防衛力整備」の「国民的合意が必要」と、こうした立場に沿った労働運動こそ「統一準備会」のわざす方向である。まさに今日押し進められている労戦統一は、日本帝国主義の軍事大國化、戦争の途への労働者の動員を労働組合の名をもって促進する一大反攻撃に他ならない。

日本帝国主義の「高成長」期に生みだされ、独占ブルジョアジーによって養われてきた労働貴族が、戦争と革命の要素が増大する時代に、より一層反動化し、労働者を分裂させ、

労働運動を腐敗させる種々の策動を強めることは、帝国主義の支配の危機の反映に他ならない。ブルジョア組合主義者、「ブルジョア的労働者党」（エングルス）たる同盟、JC、民社党が、労働者の少数者しか代表していないこと、又、この間の職場支配の強化、合理化攻撃の中で、ますます労働者の離反を生み出してきている時、同盟、JC主導の帝国主義的労戦統一策動に反対し、彼らが労働者の利益を裏切り、売りわたしていること、労働貴族とブルジョアジーの少数者の利益を守っていること、ブルジョア思想や影響の伝達者であること、実際にブルジョアジーの同盟者であり、手先であることを全戦線で暴露し闘い抜かなければならない。

民社党が、労働者の少数者しか代表していないこと、又、この間の職場支配の強化、合理化攻撃の中で、ますます労働者の離反を生み出してきている時、同盟、JC主導の帝国主義的労戦統一策動に反対し、彼らが労働者の利益を裏切り、売りわたしていること、労働貴族とブルジョアジーの少数者の利益を守っていること、ブルジョア思想や影響の伝達者であること、実際にブルジョアジーの同盟者であり、手先であることを全戦線で暴露し闘い抜かなければならない。

## 統一労組懇

だが総評は、「基本構想」を「大筋理解し」、「五項目補強見解」（反自民、全野党の結集など）を提起し、労戦統一への参加を前提として内部一致を計らんとしている。

臨時大会は、「統一準備会」への参加を決定しなかつたが、①これまでの経過を尊重するの統一基本構想に対する五項目の補強見解——が、主流派の賛成多数で可決された。そ

して、大会直後、執行部は「原案の大筋は認められた」とし、「統一準備会」参加への活動を開始している。日教組中央委で修正案が逆転採択されたことや、私鉄の参加から保留への転換等は、両協会派や社会党左派の総評主流派に対する「反乱」を引き出すことによって、統一労組懇、両協会派、社会党左派、下部労組員の労戦統一反対が、一時に勝利したことを示している。しかし、総評労働運動に対する評価においては、幻想をもつ部分も含め、国民春闘路線の継承を謳っているのである。

今日の労戦統一が、国民春闘の中で育まれ、成長してきたことを見るならば、労戦統一に反対するだけでなく、国民春闘の敗北を明らかにし、又、同盟、JCのブルジョア的労働運動との非妥協的闘争を組織しなければならない。

共産党、統一労組懇は、「労働者・国民の利益を守るナショナルセンター」の確立をめざして奮闘している統一労組懇の活動を原動力として、日本労働組合運動の新しい流れが生まれている」と、述べている。彼らは、「統一準備会」に対し、①「労資

一体化」路線②「反共分裂主義」③選別結集④国際自由労連の「運動理念」による日本労働運動の右翼再編、と批判しているのである。そして労戦統一の三原則——①資本からの独立

②政党からの独立③一致する要求にもとづく行動の統一——を掲げ、労働運動の民主的回生、ナショナルセンターの階級的民主的確立を主張している。

しかし、彼らの「統一準備会」批判は、彼ら自身が独自のナショナルセンターを共産党の「革新勢力」の一翼として組織していることからわかるように、選別結集批判、分裂主義批判は彼らにも向けられねばならない。又、「教師聖職論」「自治体奉仕者論」は、「資本からの独立」と矛盾し、逆に労資一体化の一つのあらわれに他ならない。労働者、国民の利益を謳いながら、労働運動の発展、ストライキ闘争の組織化に関して、「スト万能論」として批判していることは、彼らが資本の支配の枠内での運動に労働運動を制約する反動的役割を果していている。

「統一準備会」が生まれる経済的基礎たることこそ、彼らのこうした反動的方針、立場を生み出しているのである。

又、革マル派は、労戦統一の実事上の支持者として、楨枝・富田のたいこ持ちになつてゐる。一〇・二〇闘争では、労戦統一反対を呼びかけ、総評執行部を追及した労働者へ敵対し、更に、十一月四日には、会場防衛隊（？）として登場し、「準備会」参加の推進者組織したり、総評執行部の私兵として登場する革マル派の無原則性は、彼らの「運動組織論」なる観念的路線の限界、反動性を明らかにしている。

十二月十四日の「統一準備会」発足は、「協議会」「連合会」へと敷かれたレールの出发点である。戦闘的労働者は、何よりも「産業報国会」へ突き進む労戦統一に反対し、労

戦統一策動との闘いをあいまいにする総評、統一労組懇らを批判し、又この闘いを日本帝國主義打倒の闘いの一環として闘い抜かねはない。独占ブルジョアジーに買収された「労働貴族」は、日本帝国主義の繁栄によって保護されてきた。だが今日、帝国主義の対立、抗争が激化していること、より一層の搾取の強化した事実から、一方で、自國の一部の労働者が買収を可能とする経済的可能性が脅かされ、他方で帝国主義を打倒しようとする勢力が強まる傾向が歴史的にも不可避となつていて。帝国主義の危機の深まりの中で、彼ら労働貴族が反動化するのは明らかである。帝国主義強国として「発展」し続けることが、彼らの地位を保障するからである。

労働運動は、ブルジョア組合主義者の支配から解放されなければ、ブルジョア労働運動にとどまらざるを得ない。日和見主義、社会排外主義との分裂が開始された。彼らと容赦ない、非妥協的闘争によって労働者階級を革命へ訓練すること、ブルジョア組合主義者のあらゆる反動的策動を暴露し、社会主義のために、革命のために、闘う労働者を組織することが唯一、労働運動の革命の方針である。

（3頁よりつづく）

て、その闘いは全体制を支える日、米帝にも向けられずにはおかない。日本労働者階級は、この闘いに応え、連帯し、共通の目的に向かって進まねはならない。日本帝国主義の全体制への一切の援助、日本資本の「韓」国進出に反対し、そして、同盟の労働貴族による御用組合との結びつきを弾劾し、日帝の「韓」国属国化攻撃と闘い抜かねばならない。

朝鮮の自主的平和的統一支持。「二つの朝鮮」策動、「クロス承認」反対。米「韓」条約反対。米軍即時全面撤退。

日「韓」条約破棄。朝鮮民主主義人民共和国との国交回復。日帝の全斗煥一味への一切の援助停止。日本資本の対「韓」進出反対。

一切の在「韓」権益の放棄。

日米安保条約破棄。「有事立法」反対。

南朝鮮人民の反独裁闘争支持。光州をはじめとする南朝鮮人民虐殺糾弾。金大中氏らの抹殺攻撃粉碎。すべての政治犯の即時釈放。

入管体制解体。

# 全体制を搖がす 南朝鮮人民の決死的闘い

全斗煥（チヨン・ドファン）体制下の南朝鮮で、九月に入り再び反政府闘争が活発化している。九月十七日のソウル大をはじめ西江大、延世大、外国语大、慶熙大、成均館大、漢陽大、高麗大、梨花女子大、そして光州の全南大と、まさに全国的規模へと拡大している。

学生の決死的闘いに対し、全体制は、学内への警官隊の導入、常駐化を強め、一層の力の支配であつて押えつけようと必死になつている。

だが、南朝鮮人民の闘いは、全体制が強権的になればなるほど、一層激しく、より強固なものとして全土へ波及するであろう。朴体制下での維新体制をもつてしても労働者人民の闘いを解体できなかつたように、そして逆に、弾圧の強化が、馬山、釜山、光州の蜂起を生起させたように、南朝鮮人民の不屈の闘いは一層拡大するであろう。

階級情勢を規定する南朝鮮経済は、すでに何度も述べてきたよう

に、「輸出第一主義」が完全に破

が強化されている。

最大の特徴は労働者階級の闘い、大させている。インフレは、六〇年代の十七・五%から七〇年代の十九%，そして八〇年には三四・七%へと暴騰した。他方、借款経済の結果、今年六月には対外債務残高が一三三億ドルに達した。こうした経済の破局状態の中で、全体制は、その克服策を借款をテコとした従来通りの「輸出第一主義」で乗り切ろうとしている。この経済政策が南朝鮮人民をより一層犠牲にするのは明らかであろう。

第二は、団体交渉権は企業単位でも職のない不安定な学生の状態が、今日の南朝鮮情勢を根本的に規定しているのである。

貧富の差が誰の眼にも明らかとなり、こうした労働者人民の生活状態、社会状態が、そして卒業して全土へ波及するであろう。朴体制下での維新体制をもつてしても労働者人民の闘いを解体できなかつたように、そして逆に、弾圧の強化が、馬山、釜山、光州の蜂起を生起させたように、南朝鮮人民の不屈の闘いは一層拡大するであろう。

第三は、そのような経済危機を基底として、全体制は深刻な事態に直面している。オリンピックのソウル開催が声高に叫ばれ、国家総動員態勢によって労働者人民の耐えがた

るが、今日の南朝鮮情勢は、すでに何度も述べてきたよう

に、「輸出第一主義」が完全に破

が強化されている。

最大の特徴は労働者階級の闘い、大させている。インフレは、六〇年代の十七・五%から七〇年代の十九%，そして八〇年には三四・七%へと暴騰した。他方、借款経済の結果、今年六月には対外債務残高が一三三億ドルに達した。こうした経済の破局状態の中で、全体制は、その克服策を借款をテコとした従来通りの「輸出第一主義」で乗り切ろうとしている。この経済政策が南朝鮮人民をより一層犠牲にするのは明らかであろう。

第三は、団体交渉権は企業単位でも職のない不安定な学生の状態が、今日の南朝鮮情勢を根本的に規定しているのである。

貧富の差が誰の眼にも明らかとなり、こうした労働者人民の生活状態、社会状態が、そして卒業して全土へ波及するであろう。朴体制下での維新体制をもつてしても労働者人民の闘いを解体できなかつたように、そして逆に、弾圧の強化が、馬山、釜山、光州の蜂起を生起させたように、南朝鮮人民の不屈の闘いは一層拡大するであろう。

第三は、そのような経済危機を基底として、全体制は深刻な事態に直面している。オリンピックのソウル開催が声高に叫ばれ、国家総動員態勢によって労働者人民の耐えがた

るが、今日の南朝鮮情勢は、すでに何度も述べてきたよう

に、「輸出第一主義」が完全に破

が強化されている。

最大の特徴は労働者階級の闘い、大させている。インフレは、六〇年代の十七・五%から七〇年代の十九%，そして八〇年には三四・七%へと暴騰した。他方、借款経済の結果、今年六月には対外債務残高が一三三億ドルに達した。こうした経済の破局状態の中で、全体制は、その克服策を借款をテコとした従来通りの「輸出第一主義」で乗り切ろうとしている。この経済政策が南朝鮮人民をより一層犠牲にするのは明らかであろう。

第三は、団体交渉権は企業単位でも職のない不安定な学生の状態が、今日の南朝鮮情勢を根本的に規定しているのである。

貧富の差が誰の眼にも明らかとなり、こうした労働者人民の生活状態、社会状態が、そして卒業して全土へ波及するであろう。朴体制下での維新体制をもつてしても労働者人民の闘いを解体できなかつたように、そして逆に、弾圧の強化が、馬山、釜山、光州の蜂起を生起させたように、南朝鮮人民の不屈の闘いは一層拡大するであろう。

第三は、そのような経済危機を基底として、全体制は深刻な事態に直面している。オリンピックのソウル開催が声高に叫ばれ、国家総動員態勢によって労働者人民の耐えがた

るが、今日の南朝鮮情勢は、すでに何度も述べてきたよう

に、「輸出第一主義」が完全に破

が強化されている。

最大の特徴は労働者階級の闘い、大させている。インフレは、六〇年代の十七・五%から七〇年代の十九%，そして八〇年には三四・七%へと暴騰した。他方、借款経済の結果、今年六月には対外債務残高が一三三億ドルに達した。こうした経済の破局状態の中で、全体制は、その克服策を借款をテコとした従来通りの「輸出第一主義」で乗り切ろうとしている。この経済政策が南朝鮮人民をより一層犠牲にするのは明らかであろう。

第三は、団体交渉権は企業単位でも職のない不安定な学生の状態が、今日の南朝鮮情勢を根本的に規定しているのである。

貧富の差が誰の眼にも明らかとなり、こうした労働者人民の生活状態、社会状態が、そして卒業して全土へ波及するであろう。朴体制下での維新体制をもつてしても労働者人民の闘いを解体できなかつたように、そして逆に、弾圧の強化が、馬山、釜山、光州の蜂起を生起させたように、南朝鮮人民の不屈の闘いは一層拡大するであろう。

第三は、そのような経済危機を基底として、全体制は深刻な事態に直面している。オリンピックのソウル開催が声高に叫ばれ、国家総動員態勢によって労働者人民の耐えがた

るが、今日の南朝鮮情勢は、すでに何度も述べてきたよう

に、「輸出第一主義」が完全に破

が強化されている。

## ロッキード判決

### 「国会の権威」を叫ぶ社共

十一月五日、東京地裁は、航空機疑獄—ロッキード事件の国会での証人喚問で議院証言法違反（偽証罪）に問われていた国際興業社主、小佐野に対して懲役一年、又、児玉の秘書、太刀川に外為法違反で執行猶予二年をいい渡した。

ロッキード事件が一連の航空疑惑と同様に、権力犯罪、企業犯罪であるということは明らかである。

児玉の秘書、太刀川に外為法違反で執行猶予二年をいい渡した。

ロッキード事件が一連の航空疑惑と同様に、権力犯罪、企業犯罪であるということは明らかである。

児玉の秘書、太刀川に外為法違反で執行猶予二年をいい渡した。

ロッキード事件が一連の航空疑惑と同様に、権力犯罪、企業犯罪であるということは明らかである。

児玉の秘書、太刀川に外為法違反で執行猶予二年をいい渡した。

ことで満足し、しかも一年の「刑」なのである。労働者大衆に対する主義の下では、汚職、貪収等々が公判と比べてなんと「民主主義」的なやり方ではないか。

ロッキード事件は、金権政治への労働者大衆の憤激を高め、田中の公判に重大な影響を与える」

をを持つことはできない。逆に、プロセスの伸長、及び二階堂の党三役

の中の公判に重大な影響を与える」

を強く示すのである。

だが、社共をはじめとする各野党は、今回の判決に対して、こそ「国会の権威を保った」「田中の公判に重大な影響を与える」

と全面的に賛美しているのだ。国会はブルジョア支配の機関で支配を打倒しなければならない。

（2頁へつづく）





## マルクス・レーニン主義通信

法則を創造したりすることはできない」（『諸問題』）、と。従つて価値法則もそれを「認識」し、「立脚」すれば、社会のために「利用」しうるとされるのである。

だがこれが、自然史的過程と社會的過程との混同であり、資本主義的カテゴリーの永遠化、絶対化であることは明らかであろう――そして、スターリニストにあっては、現実的諸関係からカテゴリーが抽出されるのではなく、カテゴリーから現実が作られるのであるが。

も除去される。社会的生産の内部にある無政府状態にかわって、計画的、意識的な組織が現われる。各個人の生存闘争は終りをつげる。これによつてはじめて、人間は、ある意味では、終局的に動物界から分離し、動物的な生存条件からぬけだして、真に人間的な生存条件のなかへ踏みこむことになる。

人間をとりまく生活条件の輪は、これまで人間を支配してきたが、いまや人間の支配と統制とに服する。そして人間は、自分自身の社会組織の主人となるから、またそ

マルクスやエンゲルスは、この資本主義と共産主義の本質的区別を明らかにしたのであった。

スターリンの誤りは、しかし單なる誤りではない。それは一つの必然性を有しているのである。すなわち、それは、ソ連においては、いまだ「客観的」経済法則が支配しているということの告白であり、国家資本主義の確立、発展のために国家による価格統制を「利用」せざるを得なかつたということの理論的表現だということである。

いわゆる「スターリン批判」の

は、はるかにブルードンを上まわるものである。

日本共産党的御用学者や反スターリン者は、ソ連製の経済学を理論的に誤まつてゐるというだけであつて、ソ連の現実に目を向けようとはしない。それは結局、ソ連国家資本主義を美化することなのである。

スターリンは、国家資本主義を合理化し、その発展に「奉仕」する経済理論を作りだした。後の「社会主義」経済学も、その本質において同様である。かくしてスタ

もちろん、いくらスターリンにあっても、単純に自然法則と経済法則を同一視しているわけではない

うなることによつて、ここにはじめて自然の主人、自覚したほんとうの主人となるのである。人間の

一環として、スターリンの経済理論も一定の修正を受けざるをえなかつた。もちろん、国家資本主義

一リンは、「社会主義」経済学の「始祖」としての称号を受けるにふさわしいのである。

い。スターインは、「経済学の特色の一つは、その諸法則が、自然科学の諸法則とはちがって、永続的なものでないという点に、それらの諸法則が、すくなくともその大部分は、一定の歴史的時期のあいだ作用して、そのあとでは新し

社会的行動の諸法則は、よそよそしい、人間を支配する自然法則として、人間に対立してきたが、こうなると人間によって十分な専門知識をもつて応用され、従つてまた支配されることになる。人間自身の社会意識は、これまでには自然

を合理化するという本質は継承されたのである。スターリンは、「生産物交換」への移行によつて商品生産をなくすつもりであった。だが歴史は逆に進んだのである——正確には、現物経済から商品経済への過度なバタリングによる商品生産をなくすつもりであった。

△註△スター・リンが、「剩余価値法則」「最大限利潤の法則」を前面にだすのは、貧困のなかに貧困のみを見るという特徴を示すものである。それらと何の脈絡もなく「全般的危機」論を

い諸法則に席をゆずるという点にあるのだ。しかし、それらは、つまりこれらの諸法則は、絶滅されるのではなくて、新しい経済的諸条件のために効力をうしない、新しい諸法則に席をゆずるために舞台からしりぞくのであって、これらの新しい諸法則も、人間の意志によって創造されるのではなくて新しい経済的諸条件にもとづいて発生するのである」（同）と語っている。

と歴史から押しつけられたものとして、人間に対立してきたが、いまやそれが人間自身の自由な行為となる。これまで歴史を支配してきた客観的な、よそよそしい力は人間自身の統制に服する。そのときからはじめて、人間ははつきり意識して自分の歴史を自分でつくるようになる。そのときからはじめて、人間が作用させる社会的諸原因が、大体において、人間がそれらに望んだとおりの結果を実際

済への过渡をスムーリングが商品経済から社会主義経済への过度と、發展しつつあるものを没落しつつあるものと錯覚したということなのであるが。事態は、「非現物経済化」の方向へと進展した。「経済学教科書」は、次のように言う、「共産主義の全面的建設への全期間にわたって、商品、貨幣関係を縮小し、それを生産物交換におきかえるのではなく、それを全面的に發展させ、共産主義社会建設のためにそれを利用しなければなら

展開するのも同じことである。

たが、資本主義と社会主義の関係を、古い経済法則と新しい経済法則の交替と把えるのは、スター

にもたらすようになります。その度合が高まってゆくことになる。これは必然の國から自由の國

ない」、と。

マカルクスは、「共産主義が従来のあらゆる運動と異なるところは、それが従来のあらゆる生産関係と交通関係の基礎をくつがえし、あらゆる自然発生的的前提をはじめて意識的に従来の人間たちの産物として取り扱い、それらの自然発生性をはいで、一体となつた諸個人の力に屈せしめるところにある」(『ドイツ・イデオロギー』)と述べている。

「ハの人類の飛躍である」（『反デューリング論』）。

これは、スターインによつても引用されているのであるが、その内容はまったく別のものである。マルクスやエンゲルスの引用から明らかなことは、「客観的」経済法則としてあらわれれる（資本主義的な）社会的諸関係はくつがえさなければならないこと、共産主義にあつては、社会的諸関係は「客観的」経済法則としてあらわれず、いわば「人間の意志によつて創造

ては、資本主義と共産主義の区別も定かではないのである。国家資本主義を社会主義であると考える者にとつてはあたりまえのことであるが、ソ連がますますブルジョア的発展をとげているということを誇らしげに語るこの厚顔さ。マルクスは、「資本制的所有に対立させて商品生産の永遠的所有法則を有効ならしめることにより資本制的所有を廃絶しようとする、ブルードンのするさは驚くべきものである！」（『資本論』）と語つ

同様のことを、エンゲルスは次のように言っている。多少長くな  
るが引用しておこう。「社会が生  
産手段を掌握するとともに、商品  
生産が除去され、そしてそれとと  
もに生産物の生産者に対する支配

される「とこう」と、これである。

たが、スタークリニストのハグするき//

# カンパを

# 年末一時金の圧倒的カンパを